

# 海外生活 エッセー

## 北京事務所

### 中国の伝統芸能「快板」と、北京で活躍する日本人

(一財)自治体国際化協会北京事務所 所長補佐 戸國 峻 (鳥取県派遣)

皆さんは中国文化と聞いて、どのようなものを想像するでしょうか。悠久の歴史と広大な大地を誇る中国には様々な伝統文化が存在します。

今回はそのひとつである「快板」について取り上げたいと思います。快板は中国の伝統民間芸能で、両手で竹製の板を鳴らしながら、そのリズムに合わせて物語を歌う芸です。中国語の「快」は速いという意味で、早口言葉のようなスピードで韻を踏みながら、高速で物語を進めていきます。台詞を暗唱するだけでも極めて難しいのに加え、

物語の登場人物になりきれているか、目線や姿勢、左右の手の位置は正しいかといった様々な要素が要求されます。



ドイツ×日本で中国の伝統芸能「快板」を披露

以上の理由から、これは中国人にとっても習得が難しい伝統芸能です。しかしながら、私は北京に赴任後、この快板を習得した日本人である小松洋大（こまつ ようた）さんに出会いました。高校1年生から中国語を学んだ小松さんは、北京出身の先生の影響を受け、高校卒業後に北京の大学に進学。普段は日本語教師をしている会社員ですが、彼の操る北京方言の中国語は、中国人が聞いても北京の下町育ちだと誤解するほどです。もともと中学校で打楽器を経験していた小松さんは、大学時代に偶然テレビで目にしたこのリズムカルな芸に引き込まれました。大学の授業でも触れる機会があり、その後も我流で練習していたところ、快板のプロが外国人の弟子入りを募集していることを知り、その門を叩きます。



師匠からの指導

先日、北京のアートスポットである798芸術区という地区で、北京に住む外国人が伝統芸能やトークショーを行うイベントがあり、その演目の中に小松さんの舞台もありました。舞台後に観客の拍手喝采や歓声を受けた小松さんは、「前回の舞台はコロナ前。数年越しの舞台ではありましたが、観客の皆さんの声援を聞くことが何よりの生きがいである私にとって、とても嬉しく思います」とおっしゃっていました。

今後の目標として、日本で舞台を行い、快板の魅力を伝えたいと語る小松さん。快板を通じた文化交流、そしてその先にある日中友好を見つめる小松さんのまなざしに、熱い思いを感じました。



798芸術区にて久々のステージに上がる小松さん